

旧道の完全復元を目指す増毛山道の会会長

ひと 2014



伊達 東 さん

「早く完全復元を」という多くの人の後押しで、やっとここまで来ました。江戸時代に開かれた「増毛山道」(留萌管内増毛町別所―石狩市浜益区幌)の復元を目指し、会として今秋、新たに増毛町側の難所、雄冬山山頂までの5・1キロの山道を切り開く。これにより、直線距離26・8キロのうち約6割が復元される予定で、石狩市側の11キロを残すだけとなる。

松前藩のもとで、増毛周辺の場所請負人としてニシン漁場の

経営に当たった豪商伊達家。山道は8代目伊達林右衛門が私費を投じて、安政4年(1857年)に開通。交易・生活路として、部分的には昭和20年代まで使われた。12代目の次男として山道復活への思いは熱い。

伊達家の古文書を解読しながら「コソコソと調べだして20年。山道は北海道の文化遺産。何とか復活を」との願いが、多くの人や行政を動かし、2008年に任意団体として会が発足。その後NPO法人化され、会員は現在250人に達する。復元に向けたササ刈りなどの

作業は09年に着手。10年秋には、増毛町内の別所―岩尾分岐間(10・7キロ)などが開通した。「標高千メートルを超える、これだけ長い山道は貴重と思う。若い人

たちにも伝えていきたい」

東京に生まれ、4歳の時、伊達家経営の漁業会社の本店が置かれていた札幌へ。北海道高校から成蹊大を経てホテルマンを長く務めた。札幌市在住。80歳。

(黒川伸一)